

## 引率者としてのカムデン派遣

杉山 真麻子（引率者）

5年前に派遣生としてカムデンを訪れた時、素晴らしい人々に恵まれ、毎日がとても楽しく、もう一度ここに来たいと思ったことを鮮明に覚えています。そして、今回、引率者として再度カムデンを訪れることができると決まった時は、とても嬉しかったです。同時に、英語もあまり話せない私に引率者が務まるのかと不安でした。

派遣に向けての事前研修では、派遣生の自主性に任せ、なるべく口を出さないようにしようと決めていました。研修の途中では、パフォーマンスの仕上がりが遅くなってしまい、ご心配をお掛けしたかもしれません。しかし、派遣生たちがだんだんとアイデアを出したり、みんなのために家で準備をしてくれたりするようになる様子を見ていて、とても頼もしく感じました。カムデン派遣中は、毎日できる限りのホストファミリーや派遣生に話しかけ、ステイ先での状況を聞こうとしていました。滞在初期のキャンプの頃には、ホストファミリーと話せない、ホームシックになったなどと言っていた派遣生が何名もいました。しかし、少しずつ話をする努力をされていて、毎日状況を聞くたびに打ち解けていっている様子を見ていて、とても嬉しかったです。最後のお別れでは、別れを惜しんで誰もバスに乗りたがらないのを見て、とてもよい経験ができたのではないかなと思いました。

私は、以前私の家に泊まったことのある Ariane のご家庭に滞在させていただきました。Phillips 家の皆さんは、日本のことに大変興味をもってくださり、日本についてのさまざまなこととお話ししました。また、CIFA のアクティビティから帰ってきた後、毎日いろいろな場所に連れて行ってくださり、多くの経験をさせていただきました。

引率者の新井さんには、多岐にわたりいつも助けていただきました。私も引率のはずなのに、何から何まで本当にお世話になりました。また、みんなを引っ張ってくれるリーダーをはじめ、陰でみんなを誘導してくれる人や、たくさんのことを質問する人、いつも笑って周りを楽しくしてくれる人など、派遣生それぞれにも助けられました。落し物や小さな怪我、風邪などはありませんでしたが、無事に戻ってくることができ、ホッとしています。この14名でカムデンに行くことができ本当によかったです。

今回、引率者として参加して特に感じたことは、この派遣事業には多くの方々関わっており、多くの方々の支えによって長年続いてきているということです。最後に、オーストラリアで私たちを常に支えてくださった CIFA の皆様、派遣の準備段階から帰国後までお世話になっている KIRA の皆様、柏市の皆様、引率者の新井さん、派遣生とそのご家族の皆様、そして、この派遣事業に関わるすべての方々に感謝申し上げます。

